



Photo by T.Happy

## ■ 師走に (事務局長 田代 周)

いよいよ今年も最後となりました。一年があつという間に過ぎてしまいます。歳と共に時のたつのが早く感じるようになりました。10歳の子供にしてみれば一年はその人生の1/10、80歳では1/80。どんどん短く感じるようになってしまうものだと思います。正月に今年はこのをしようと願掛けをしても一年経ってしまうと結局何もできなかった、ということを経年繰り返しています。

何もできなかったことをコロナのせいにはいけないでしょうが、あとからあとから形を変えて人類に挑戦してきて、今年も終息は見えませんでした。この粘り強さを人類は学ぶべきか。

カタールで開催中のFIFAワールドカップで日本チームは世界の強豪を相手に見事予選を突破しました。先制されながらも粘りの逆転。

目標のベスト8どころか優勝も狙える。年末の夢を広げてくれました。強い相手に対していつまでも挑戦し続けることの大切さを教えてくれました。来年は更に短くなっていきますが、夢は大きく広げたいと思います。

写真は浜松町の世界貿易センタービル展望階からの景色です。館内のクリスマスイルミネーションも映り年の瀬を漂わせています。しかしこのビルは再開発のため、現在は解体中で、2029年に新たな高層ビルに生まれ変わる予定です。その時にまた同じ景色を見ることができでしょう。現在の解体工事の様子は下記 URL 参照

[https://www.kajima.co.jp/tech/wtc\\_kaitai/index.html](https://www.kajima.co.jp/tech/wtc_kaitai/index.html)

## ■ 活動報告「10月度 Online 会合」

11月22日 (火)に「読映会2」として、かつてニッパーズ銀座があ



った新橋について歴史を学びました。ビクターが手放したビルその後の変遷を感じました。

<http://jvc-senior.com/20221122online.pdf> 参照

## ■ COP27とCANの化石賞

11月6日からエジプトにおいてCOP27(国連気候変動枠組条約第27回締約国会議)が開催されました。前回、英国グラスゴーでのCOP26では脱石炭が大きく取り上げられましたが、日本はその動きに消極的であるとして、環境団体CAN(Climate Action Network)は日本に対して「化石賞」を授与しました。

そしてまた、COP27においても同様となりました。

「既存の火力発電をゼロエミッション化…」や「石炭にアンモニアを混ぜて…」などと言った瞬間に、石炭火力発電の延命を図っている、と捉えての授与です。ロシア・ウクライナの戦争でエネルギー問題が大きく浮上して、欧州でも石炭の利用やむなしの動きがある中、随分とこだわった行動と思えてなりません。

最近の環境保護団体の中には一部過激化して、美術品を棄損するような行動が見られます。そのような団体とは一線を画したウイットに富んだ化石賞授与であってほしいものです。授与された側もそんなに気にすることではないのかもしれませんが。

## ■ 「安いニッポン脱却への意識改革を」

前月号の円安2の最後の部分で「大手企業の社内留保が増えている」と述べましたが、11月26日の産経新聞で「安いニッポン脱却へ意識改革」という記事があったので紹介します。

記事の一部および、図は次の URL を参照ください。

<https://www.sankei.com/article/20221126-YB3W564UHNONXEPG4OJXKK27TU/>

結論では歴史的な物価高騰の中で来春闘を契機に人・社会の意識改革を求めています。以下要約

- ・ 大手企業の9月中間決算では過去最高水準を記録した。通期でも最高利益を更新する見込み。コロナ回復の兆しで鉄道・空輸などの非製造業が牽引している。製造業でも円安が輸出を伸ばし、海外事業も円換算で収益拡大。原材料のコスト高を吸収した企業が多い。
- ・ 一方家計は物価上昇で厳しさを増している。賃金はここ30年ほとんど上がっていないが、企業の内部留保は増大、株主配当金も増加している。経営者の意識は従業員よりも株主の方に向いている。
- ・ 連合は来春闘で5%程度の賃上げを求める方針。これは平成7年以来の高い目標である。経営側も賃上げの必要性を認めているが物価上昇分を補うほどの賃上げは容易ではない。
- ・ バブル崩壊後、「物価も賃金も上がらない」という考えが定着してしまった。企業のコスダウンへの取り組みは大切であるが、コスト上昇分を従来と変わらず中小企業へのしわ寄せや、従業員の賃金を抑制しているばかりでは経済の好循環は生まれにくい。
- ・ 大企業は企業努力を超えるコストアップ分を価格転嫁する方向に動いているが、中小企業ではなかなかそれが進まない。全ての階層において「**正当な価値を正当な価格に反映できる状況**」を創り出さない限り賃金上昇は難しい。安いニッポンから脱却するための意識改革が必要。来春闘をその契機としてほしい。

## ■ 皆既月食と惑星食 11月8日(火)

月食と惑星食が重なるのは日本では442年ぶりとのこと。11月8日の夜空を見上げた方も多かったことと思います。今回は月と天王星の同時食でした。

1580年は月と土星だったとのこと。今より夜空はくっきりと見えたはずで、当時の人もその天体ショーを眺めていたのではないのでしょうか。

次回は322年後でまた月と土星となるようですが、その時の夜空はどのように見えるのでしょうか。

「ダンジョンスケール」というものがあります。月食の時の月面の色・明るさで地球大気の状態を診断がなされるとのこと。大気が汚染されていると月面が暗く見え、澄んでいけば明るく周辺は黄色味を帯びたように見えるそうです。

右上の写真は(栃木)宮田宏美さんからの提供です。栃木の空はかなり澄んでいましたね。



写真は 20:30 ごろから2分間隔で撮った天王星の動き  
首都圏では20:40頃に月の影に入って40分ほどで顔を出した。<https://youtu.be/tAA8xQUzXuc> も参照

## ■ 事務局から

1) 11月18日(金)鎌倉円覚寺で座禅の修行体験をしてきました。<http://jvc-senior.com/page327.html> 参照  
指導の僧侶から最初に次の話がありました。「心を無にするのは難しい。座禅中は自分の息を数えるように。これを **数息観**(すそくかん)という。」

大きく息を吸ってから肺の中の空気をすべて出す。これを繰り返してその回数をひたすら数え続けることにより心の散乱を停止する観法であるとのこと。



確かに数を数えているとその他のことを考える暇がなく座禅に集中できた様でした。足を組むのがつらい様であれば椅子に座ってでもよし、深呼吸しながらその回数を数えていけば、長い待ち時間も苦にならないでしょう。皆様もお試ください。

2) 11月21日(月)横浜にて「V9.13 元気かい」が開催され、元ビクター社員に現会社役員を加え総勢120名ほどが一堂に会しました。内、シニアクラブ会員は32名でした。当クラブ会員の中で寿会の地区支部長を担う人も複数いて地区のOB会の要となっています。コロナ第8波の兆しもありましたが、3年ぶりの顔合わせでお互い友好を深めることができました。

3) 第210回臨時国会が開催中です。7月の参院選で当選した「村田きょうこ」議員は早速、委員会での質問に立っています。その活躍ぶりの一端をご覧ください。 <https://youtu.be/zBOEPLDZDAc>

4) 定期総会は来年2月を予定しています。今年2月に計画していた総会日程にあわせての国立演芸場観劇はコロナのために上演中止となっており、総会も書面審議となってしまいました。来年は是非顔を会わせて実施したいと考えています。

具体的な内容は正月早々にご案内します。

事務局 田代 周

2022年ワールドカップサッカーが始まりました。予選リーグで日本は初戦に強豪ドイツと闘って見事勝利しました。ワールドカップサッカー大会は小生にも少なからぬ因縁があり、今回のドイツ戦を観てその思い出を記します。

停年直後の2002年開催の韓国日本大会で、縁あってドイツチームの警備担当通訳を務めました。息子の友達がJFA（日本サッカー協会）に勤めており、各国の警備担当から通訳配置を依頼され、彼の推薦でドイツチームの警備担当者の通訳を務めました。右はその時の身分証明書です。

ドイツ側は空手愛好家の警部補さん、日本側は合宿先の宮崎県警の警部・警部補のお二人。当然ドイツ語には縁がなく、小生頼りの活動でしたが、双方ともに警備という役目に関しては経験あるので安心でした。

チームの合宿先・宮崎のホテルに我々も同宿し、チームの活動に併せて同行するときにコミュニケーションを図るのが小生の役目でした。

合宿を終えいよいよ戦いが始まりました。仙台・東京での試合を終えて一次リーグ戦突破、その後ドイツチームは韓国に移動して、本戦を戦い決勝進出を決めました。再びチームは決勝戦の行われる日本に戻り我々はまた合流しました。

横浜で行われた対ブラジル決勝戦は得点0対2で残念ながら負けましたが、ドイツ本国から大統領も応援に駆け付け、試合終了後の「ご苦労さん会」に各関係者と共に我々も参加して盛大な会食が出来ました。その時のゴールキーパーがかの有名な「オリバー・カーン」！彼はこの大会の最優秀選手に選ばれました。

あの時、日本でのドイツ対ブラジル決勝戦は、家族全員で観戦しました。勿論ドイツを応援です。一方、今回の日本対ドイツ戦は実に複雑な思いで見えておりました。日本人であれば日本の勝利を願うのが当然だと思いますが、私は何としても日本に勝ってほしいとは思っておらず、かといってドイツに負けてほしいとは思えず、本当に複雑な気持ちでした。

結果は結果！！今回、日本は決勝トーナメントへの進出を果たしましたがドイツは敗退しました。次の機会には両チームが勝ち進み、決勝戦での対戦ができることを期待しています。

古い写真集をチェックしました。アルバム一冊分の写真がありますが、残念ながらカーン主将と一緒にの写真はありませんでした。

しかしフェラー監督とバスの最前列に並んで撮った写真がありました。私にとっては貴重な一枚です。





左は試合会場に向かう前のカーン主将とボーデ選手を収めたスナップです。

下はドイツ代表チーム全員で、カーン主将は前列中央に、フェラー監督は2列目左端に写っています。

大会スポンサーが参加全チームを収めた絵葉書のコピーです。



【結び】小生のドイツ赴任約7年間に子供たち3人は皆、現地の小学校に通い地元のサッカークラブに所属して週一回の合同練習に励んでいました。そして時間さえあれば仲間と遊びのサッカーをいつもやっていました。帰国後、その延長線上で長男・次男はサッカーからラグビーに転向し、大学時代は兄弟同士で早慶戦を対戦したほどでした。三男は引き続きサッカーに励み、現在はJFA（日本サッカー協会）指導者養成ダイレクターとして活動しています。

今、ワールドカップ開催中のカタールに赴いて全ての試合を観戦しながらレポートを送ってきています。（西川誠太：<https://www.jfa.jp/coach/news/00029086/>参照/事務局にて追記）

私が2020年に流山市議の活動を終えた際にもシニアクラブHPのお便り欄に「議員活動を振り返って」と題して投稿させてもらいましたが、今回それと一部ダブるところもありますが、改めて20年前の思い出を述べさせてもらいました。

以上